

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ

「No.1778 長期継続大型地震推定前兆変動」

原稿校了後の前兆変動変化についての続報

続報 № 476

2026. 10/21 (水曜) 13:00 発表

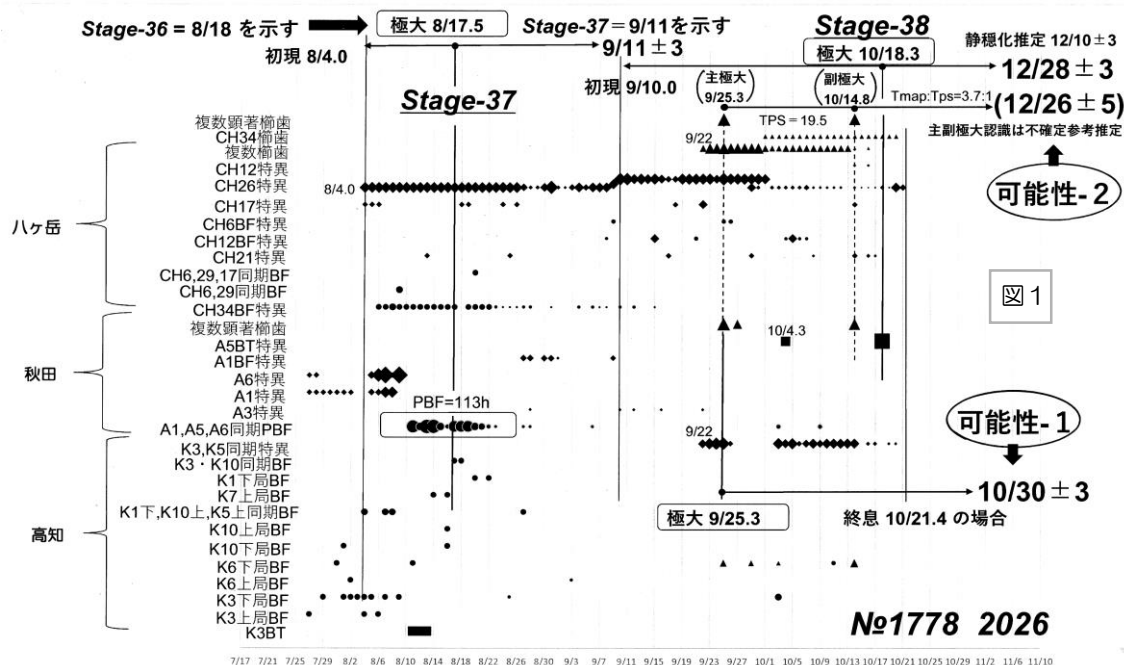
電離層におけるVHF帯域電波の
散乱変化モニター観測

八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254 jishin-yohou.com

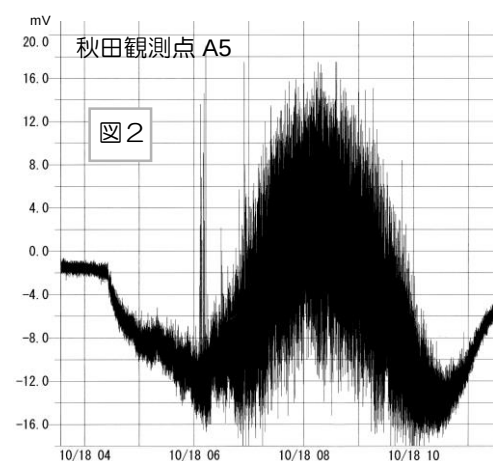
※通常のプレート境界型地震は変動極大～発生迄は2日～5日です。当該No1778前兆変動は陸域地殻地震推定で、過去例の無い18年以上変動が継続する初めて体験する極めて特殊な前兆変動です。18年以上の変動継続の中で38ものステージで変化して参りました。特に発生時期のみ苦慮しております。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。皆様の本観測研究に対するご支援(情報配信参加)を賜りたくお願い申し上げます。

No1778 Stage-38 10/18 に顕著BT特異出現 しかし 本日10/21 変動静穏状態 2つの可能性を考察中

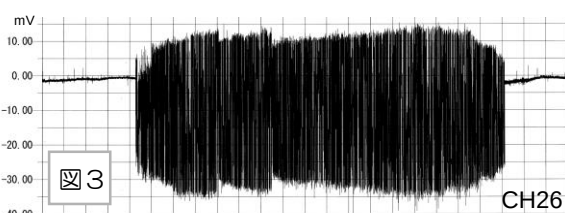


◆Stage-38 は左図1のとおりの変動出現状況です。以前の情報では 9/25.3 を極大の可能性と認識した場合 10/19 or 10/20 ±3 に変動終息が観測された場合は、10月末発生の可能性を報告していました。

◆10/18 に図2波形のとおり、秋田観測点のA5に顕著な BT 特異変動が観測されました。しかし、本日 10/21 の午前中に Stage-38 の変動は静穏化しました。現在も静穏状態が続いています。

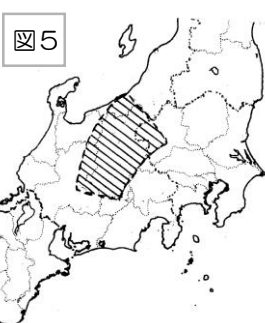
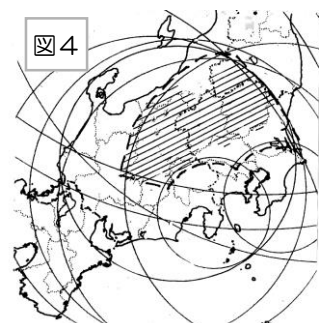


今後数日静穏状態が継続した場合は 可能性-1 10/30 ±3 の可能性
今後数日以内に変動再出現の場合は 可能性-2 12/28 ±3 の可能性



◆左図3のとおり、昨日 10/20 夕刻～本日10/21 の朝8時過ぎまでの時間帯に今まで静穏基線だった八ヶ岳CH26 に変動値の大きな特異変動が再出現しました。

◆図2のA5-BT特異や図3のCH26特異変動が、変動終息直前に変動値が大きく出現する過去例と同様だと理解した場合は、このまま変動終息となり、可能性-1の10月30日 ±3 発生の可能性が示唆されます。しかし、図2の変動が Stage-38 の極大である場合は、今後数日以内に再び変動が再出現し、可能性-2の12月28日 ±3 発生の可能性が示唆されることになります。今後数日以内に変動が再出現するか続報します。



●推定領域：図4の点線領域内＝大枠推定領域（火山近傍領域の可能性高い）
斜線領域＝火山近傍で可能性が考えやすい推定領域
図5の斜線領域内の可能性有

●推定規模：PBF平均値使用＝ $M7.8 \pm 0.3$ （PBF最大値使用＝ $M8.0 \pm 0.3$ ）
主震＋余震型が考えやすい（2016年熊本地震の様な複合地震は考えにくい）
※地震発生に伴う震源近傍火山の噴火の可能性は現状では低い。
但し、今後発生時期までの間に噴火型変動が観測された場合は別。

●推定時期：10月30日 ±3（可能性-1） 12月28日 ±3（可能性-2）
※本日現在以降に変動再出現の場合は可能性-2となる。続報予定

○推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震
○推定発生時刻：午前 9 時 ±2時間 or 午後 6時 ±3時間